



No.	団体名	事業等の名称	事業の概要			交付決定 年月日	事業予算(単位:円)		
			事業の背景	事業の目的	事業の内容		全体額	申請額	交付金額
1	一般社団法人光が丘ふれあいセンター運営委員会	地域ふれあいネットワーク構築事業	<p>(1) 当地域では様々な地域活動が展開されているが、その参加者の多くに固定化がみられる。また年代別では50代以下の参加者が非常に少ない。地域活動を通して共助の精神が根付くことが期待される中において、メンバーの偏りや世代の隔りがあるのは望ましくない。</p> <p>(2) 特定の年齢層に偏ることなく、様々な世代がこのふれあいセンターの事業を通して、共通の体験を通して交流し、楽しむことで、地域の絆を実感できるようにしたい。</p> <p>(3) 高齢者の介護予防や健康維持のために、特定のグループに所属していなくても、誰でも参加できる親しみやすい事業を行い、気軽に立ち寄れる居場所作りを目指したい。</p>	<p>(1) 仕事や子育てに忙しい世代を含めた、より多様な人々の交流。</p> <p>(2) 地域での交流機会を設定することにより、比較的若い世代の人々においても、地域の自治会など地域コミュニティの一端を担っていただくことを意識していただきたい。</p> <p>(3) 高齢者のための気軽な居場所作りと健康維持・増進に対する知識獲得と活動の習慣化</p>	<p>「夏休みお楽しみ工作教室」は、光が丘地区の子どもとその親を対象とする交流事業。4つの小学校に通う児童がもの造りをともに楽しみ、その保護者もまた別の制作を通して互いに交流するもの。</p> <p>「ふれあい手作りクリスマス」は、地区内の親子が共同制作を通して交流する事業。</p> <p>「元気に歌いませんか?」「ふれセン元気塾」「元気に楽しく暮らすために! 健康講座」は、高齢者のための健康維持と気軽な居場所作りのための事業であり、中でも「健康講座」は、地域住民自身が持ち回りで講師を務め、健康体操、ヨガなど、住民の健康を促進するという新しい事業である。</p> <p>「ママカフェ」は若年出産した母親とその子どもを対象とした交流会であり、中央保健センターの協力を得て行うものである。</p>	H29.7.25	130,000	65,000	65,000
2	こども未来ワールドin光が丘実行委員会	こども未来ワールドin光が丘	<p>光が丘地区では、担い手不足が深刻なことから、中高生が地域活動へ参加できる仕組みの構築を進めており、現在も、年間延べ200名以上の学生がボランティアとして地域のイベント等へ協力してくれている。担い手の高齢化も進んでいる中、次の世代にどのように地域の伝統等を引き継いで行くかが課題となっており、学生ボランティア等の若者世代に、自ら考え実行する機会の提供が求められている。</p>	<p>子どもたちに事業の企画運営する機会を提供し、大人たちがそのサポートに徹することとし、子どもたちが中心となった実行委員会を組織する。子どもたちは、実行委員となることで自立性・協調性・考える力を養い、事業実施による達成感を味わうことで大きく成長することと考える。</p> <p>高齢化が進み、地域活動の担い手が不足する中、子どもたちを地域で育て、将来的には、地域の担い手となれるよう、子どもたちの成長を目的としている。</p>	<p>若者世代を中心に実行委員組織を立ち上げ、企画運営に携わってもらう小中学生の実行委員を募集する。集まった子ども達で、企画・運営を行う地域イベントを11月23日(祝)に淵野辺公園にて実施。事業は、4つのコーナー(ステージ・こども・スポーツ体験・模擬店)を設け、全てのコーナーを子どもたちが企画し運営する。各コーナー内容については、こども実行委員会にて決定する。※以下、昨年度の実績。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こどもコーナー <ul style="list-style-type: none"> お化け屋敷、スタンプラリー、段ボール迷路、フェイスペイント、スライムづくり、マシュマロカフェ等 ・スポーツ体験コーナー(サッカー、アメフト、ラグビー、野球) ・ステージコーナー(高校生ライブ、じゃんけん列車大会等) ・模擬店コーナー 13団体出店 	H29.7.25	865,000	850,000	850,000
3	光が丘地区社会福祉協議会 福祉の里づくり推進委員会	若者世代の地域活動への参加促進事業	<p>地域内にある中、高、大学に通学する若者及び地域に在住する若者世代が、地域の福祉活動について、一定の役割をもって継続的に参加できる仕組みを構築し、地域のボランティア団体、個人ボランティアと協働し、障がい者や高齢者への手助けの活動を体験して、若者世代が地域で果たすことのできる役割を理解する必要がある。</p>	<p>地区は65歳以上の高齢者の割合が31.4%(平成29年4月)と、区内でトップの高齢者率となっている。その中においても、毎年開催している「光が丘地区ふるさとまつり」に代表されるように、地域住民のつながりは極めて強く、「福祉コミュニティ形成モデル事業」は市内のトップを切って実施された経緯もある。</p> <p>しかしながら、このコミュニティの持つ強みも、次の世代に引き継がれていかなければ、益々進行していく高齢地域の将来が危ぶまれる。そこで、継続的に若者世代が地域の活動に参加することを促進し、次世代の担い手の育成を目的としている。</p>	<p>多数の地域イベントに若者世代が参加しやすいように、活動場所を設定し、参加することで自然に地域社会が抱える課題に気付き、自ら参加の仕方を考える機会を提供する。加えて、まちの将来を担う中学生を構成委員として、地域の将来を考える場として「こどもまちづくり会議」を設置し、独自に企画する活動事業を検討する。</p> <p>福祉の里づくり委員会としては、地区内の様々な団体からの要望等と取りまとめ、学校との調整を行うとともに、ボランティア参加者へは「ボランティア手帳」を配布し、若者世代のボランティア養成を行う。</p> <p>※ボランティア参加者(中学卒業時)へは、記念品と感謝状を配布する。</p>	H29.9.13	460,000	230,000	230,000

No.	団体名	事業等の名称	事業の概要			交付決定 年月日	事業予算(単位:円)		
			事業の背景	事業の目的	事業の内容		全体額	申請額	交付金額
4	光が丘地区自転車事故対策委員会	光が丘地区自転車事故対策事業	光が丘地区は、自転車事故の発生件数が多く、地域の大きな課題となっている。昨年度から、様々な団体が参画して、毎月1回「自転車事故対策会議」を開催しており、その中で当地区における事故の発生状況を共有し、街頭啓発活動を実施している。しかしながら、地域における自転車事故の発生は増加傾向にあることから、特に若い世代への交通安全教育を行い、交通マナーの向上やルールの周知徹底を図ることが求められている。	スクエアードストレート事業の実施により、恐怖を実感することで、それにつながる危険行為を未然に防ぐとともに、参加者の交通マナーの向上とルールの周知徹底を図る。また、街頭啓発活動を継続して実施し、自転車事故がなく安全で安心して暮らせるまちづくりを目指す。	○交通安全教室の開催 日時・場所:2月26日:緑が丘中学校 対象者 :全校生徒300名+地域住民 内容 :交通安全講話、スクエアードストレート ※参加者への交通安全に関する意識調査を実施予定 ○2、3月に地区内(4会場)において、街頭啓発活動を実施	H30.2.7	290,000	290,000	290,000
5	中央区自治連自転車対策会議 (※8地区合同事業)	自転車事故撲滅のための交通安全啓発事業	中央区は、数年に渡って自転車事故多発地域及び高齢者事故多発地域に指定されるなど、交通事故が非常に多い地域である。今年においても昨年を上回るペースで事故が発生しており、早急な対策が必要な状況である。各地区や各団体において、1件でも多く事故を減らすために取り組んでいるところではあるが、活動の範囲は地区内に限定され、広域的な活動はあまりされてこなかった。そこで、この自転車事故対策問題を中央区全体の課題と捉え、広域的な活動を開始することとなった。	中央区全体で自転車利用者に対して標柱幕による交通安全啓発活動に取り組むことにより、自転車事故を撲滅する。	・事故が発生しやすい交差点等に「自転車も止まれ！」の標柱幕を掲出することにより、自転車利用者への啓発活動を行い、自転車事故撲滅につなげる。 ・標柱幕を設置することにより各地区における交通安全の機運を高め、啓発活動を実施する。	H30.1.29	2,387,000	2,387,000	2,387,000
							うち光が丘地区分	うち光が丘地区分	うち光が丘地区分
							527,000	527,000	527,000
							2,272,000	1,962,000	1,962,000